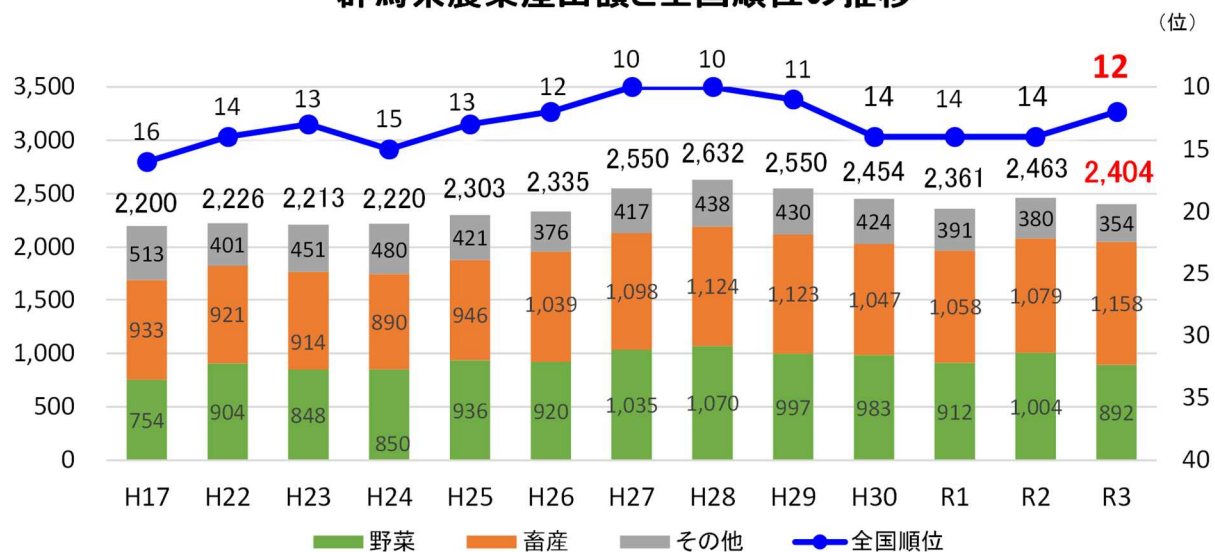


## 4. 令和4年度実績の概要

新型コロナウイルス感染症により、社会を取り巻く環境が大きく変化するなか、農業者の努力や市町村・関係団体の創意工夫によって、群馬県における農業産出額（令和3年）は前年より59億円の減少に留まり、2,404億円となりました。また、都道府県別順位は、前年14位から2つ順位を上げて12位となりました。

将来にわたって豊かな食生活を支える本県農業・農村が環境と調和しながら持続的に発展していくため、令和3年度からスタートした「群馬県農業農村振興計画2021-2025」に基づき、基本目標である「未来へ紡ぐ！豊かで成長し続ける農業・農村の確立」の達成に向けて、農業の持続的な発展を促進する「産業政策」と、農村の持続的な発展を促進する「地域政策」を車の両輪とした各種施策を推進しました。

### 群馬県農業産出額と全国順位の推移



### <施策の達成状況>

基本施策19項目の達成状況は以下のとおりとなりました。

**A : 7項目      B : 12項目      C : 0項目      D : 0項目**

判定	内容（達成状況）
A	計画どおり達成（または概ね達成）している。（100%≦達成状況）
B	達成ではないが、順調に推進している。引き続き、達成に向けて努力する。（80%≦達成状況<100%）
C	達成に向け努力が必要。必要に応じて施策の展開内容等を再点検し、見直しを検討する。（50%≦達成状況<80%）
D	達成に向け大きく努力が必要。かつ、施策の展開内容等を再点検し、必要に応じて抜本的に見直す。（達成状況<50%） ※未実施も含む

## I 未来につながる担い手確保と経営基盤の強化

新規就農者や担い手の確保については、オンライン就農相談の実施や就農希望者に対する研修機会の提供、制度資金や補助事業を活用した機械導入・施設整備等の補助を行いました。また、新たな担い手を地域ぐるみで受け入れる体制整備を促進しました。

地域農業を支える経営体に対しては、担い手の多角的な経営発展を推進するため、様々な分野のスペシャリストによる経営相談会や企業連携による農業課題解決セミナーの開催、農業経営の法人化等を推進し、農業経営の基盤強化を図りました。また、農業における課題解決を図ろうとする農業経営体と斬新なアイデアを事業化するための実証試験のフィールド等を求めるスタートアップ企業をマッチングさせ、双方の課題解決と育成に向けた取組を実施しました。

担い手の多様なニーズに応じた農業生産基盤の保全・整備を進めるとともに、農地中間管理事業を活用し、農業生産基盤整備事業を契機とした担い手への農地集積・集約化を推進するとともに、遊休農地の発生抑制に取り組みました。



オンライン就農相談



農業スタートアップ企業の事業紹介及び意見交換会

## II 次世代につなぐ収益性の高い農業の展開

野菜振興では、群馬県で生産が盛んな「きゅうり」「トマト」「なす」「いちご」「キャベツ」「ほうれんそう」「レタス」「ねぎ」を重点8品目として位置づけ、県単補助事業「『野菜王国・ぐんま』総合対策」等を活用し、施設整備や機械導入を補助することで、規模拡大や生産性の向上を図りました。また、園芸施設における燃料価格高騰対策として、施設園芸セーフティネット構築事業の加入促進を図るとともに、資材等の導入経費を補助する事業を創設しました。

花き振興では、県産花きの展示会や高校生フラワーアレンジコンテストを実施するなど、県産花きの魅力発信に取り組みました。

果樹振興では、果樹経営系支援対策事業を活用し、優良品種への転換や新植に係る経費を補助し、収益力の向上を図りました。また、県育成りんご新品種「紅鶴」のプレデビューイベントを高崎駅で実施したほか、インスタグラムを開設して「ぐんまのりんご」をPRしました。

水田振興では、高温耐性品種の普及や高品質米の生産を進めるとともに、高収益作物等の作付拡大に向け、ぐんま型「水田フル活用」を推進しました。

畜産振興では、畜産農家の労働力軽減・経営効率化に向けたICT機器の導入を推進するとともに、ゲノミック評価の活用による改良促進を図りました。その結果として、全国和牛能力共進会に本県代表牛が出品し、肉牛の部で全国5位獲得をは

じめ、本県出品牛としては過去最高の成績を収めました。また、県内の乳用育成牛の増産に向けて、浅間家畜育成牧場の草地整備改良工事等を進めました。さらに、子実トウモロコシ生産の実証など、高栄養・高収量飼料作物を中心に飼料増産の推進に取り組みました。一方、県内での豚熱発生を踏まえて、飼養衛生管理の徹底・強化、野生イノシシの捕獲強化・経口ワクチンの散布、子豚への豚熱ワクチンの適期接種等の対策に重点的に取り組むとともに、県内で初めて発生した高病原性鳥インフルエンザについて、速やかな防疫措置を講じました。



県育成りんご新品種「紅鶴」プレデビューイベント



第12回全国和牛能力共進会入賞

### Ⅲ 豊富で多彩な県産農畜産物の需要拡大

G-アナライズ&PR チームでの分析により、県育成品種のウメ（白加賀）やニジマス（ギンヒカリ）の強みや特長を見いだしました。また、上州地鶏（ムネ肉）については、G-アナライズ&PR チームの分析結果を踏まえ、機能性表示食品としての届出が消費者庁に受理されました。

輸出促進については、オンラインを活用したバイヤー招へいや海外での青果物PR販売を行い、商談機会の創出及び輸出拡大に取り組みました。令和4年2月に輸入規制が緩和された台湾において、ヤマトイモ、キャベツ、コンニャク加工品等の輸出に道筋をつけることができました。また、UAE・ドバイの現地レストランにて、こんにゃく麺を使用したメニュー開発や試食提供を行い、現地での健康志向層への需要の可能性を確認することができました。

食育関係では、郷土料理等の地域伝統に根ざした豊かな食文化への理解促進を図るとともに、「学校給食ぐんまの日（10月24日）」に畑と近隣の小学校4校の教室をリモートで結び、生産者と児童約600人が交流を図る食農教育を行いました。また、食品の安全性確保に向けた取組への理解促進を図るために、オンラインセミナー等によるリスクコミュニケーション事業を実施しました。



台湾での青果物PR販売



リモート食農教育

## IV 魅力あふれる農村の持続的な発展

蚕糸振興では、県産繭確保対策の実施や県産シルクの需要拡大を図るとともに、多様な養蚕担い手の育成として、ぐんま養蚕学校の開催や養蚕参入に係る初期投資への補助などにより、新規参入者の育成・確保に取り組みました。

水産振興では、電子遊漁券の導入によるニューノーマルに対応した漁場管理の促進や県産ブランドニジマスの消費拡大や養殖業者の育成に取り組みました。

きのこ振興では、きのこ料理コンクールの開催や学校給食に県産きのこの食材提供を行うなど需要拡大に取り組みました。

防災・減災では、防災重点ため池の豪雨・地震に対する詳細調査を推進し、改修・補強を実施するとともに、湛水被害を防止・軽減する排水施設整備に取り組みました。

鳥獣被害対策については、ドローンやネット式囲いわな等を活用した捕獲技術を普及させるとともに、地域ぐるみによる「守る」・「捕る」・「知る」の総合的な対策を推進しました。また、豚熱感染拡大防止のため、野生イノシシの移動経路となっている河川内や養豚場周辺の草木の伐採等を行い、緩衝帯を整備しました。



ぐんま養蚕学校での現場実習



貯水池における耐震補強工事



ネット式囲いわなによる効率的な捕獲

## V ニューノーマルがもたらす農村の新たな価値の創出

都市との交流や農村への移住・定住の促進のため、農泊の魅力伝えるプロモーション動画の製作や地域資源を生かした「農泊×養蚕」モニターツアーを実施し、農村への誘客促進を図りました。

農村地域の多面的機能の維持・発揮と農村環境の保全のため、多面的機能支払交付金を活用し、農業者や地域住民等による組織が取り組む多面的機能の維持・発揮や地域資源の質的向上を図る協働活動を推進しました。



地域資源を生かした農泊モデル（農泊×養蚕）



大学生との連携による協働活動